

県立大多喜高等学校

目 標

- ・ 多様な文化を認め合う人材育成の一助とする。
- ・ グローバル社会の中で、日本と離れた国や地域と、日本で暮らす私たちの生活とのつながりを考える機会を設ける。

海外理解促進のための講演会

- (1) 日 時：平成30年11月8日（木）13時30分から14時40分
- (2) 会 場：本校体育館
- (3) 講 師：氏名 宇井 美佳 氏
所属 元青年海外協力隊員
経歴 ジャマイカの特別支援学校で体育を指導。帰国後、順天堂大学大学院に進学。現在は、浦安市国際センター勤務。
- (4) 参 加 者：全校生徒 448名、教員35名、 計 483名
- (5) 内 容：
経歴等の紹介、日本のスペシャルオリンピックス活動やフィギュアスケートの指導の経験について、ジャマイカの特別支援学校で体育を指導した体験等を、ジャマイカの子供や自然を紹介する映像とともに、約60分講演。その後10分ほどの質疑応答。生徒からは、ジャマイカでの生活、治安についてなどの質問が出た。
- (6) 事前学習：事前にジャマイカについての資料を配付。生徒は、ジャマイカについての知識を持ち講演に参加した。
- (7) 事後指導：感想文作成
- (8) 参加者の感想等：
 - ・ ジャマイカのことなど学べたことがたくさんあって楽しかった。言葉も文化も違う環境で生活するのはとても大変だと思うけれど、その分何かを成し遂げられたときの喜びと達成感は苦しみの何倍も大きいと思った。私はまだ将来の夢を具体的に決められていないが、「どうせ私なんて」と思う前に、夢は大きく持とうと思った。
 - ・ ジャマイカと聞くと、陸上が強いの国というイメージしかなかったが、環境や産業、食文化など、今まで知らなかったことを知ることができてよかった。今回の講演で、「英語を学ぶのではなく、英語で何かを学ぶのがいい」と聞いたので、それを参考にして勉強し、語学力を身に付けたい。

事業の成果

- ・ 海外の生活を通して、価値観の違いや自然の大切さ、互いを尊重しながら交流していくことを学ぶ機会になった。
- ・ 知的障害者のスペシャルオリンピックの話しから、障害があってもあきらめず試みをするなかで、新しい自分の可能性に出会えるというメッセージが生徒につながった。

今後考えられる新たな取組

- ・ 外国人旅行者への観光案内。
- ・ 外国人留学生に大多喜の史跡を紹介する。